安倍川支流　椎の木沢

遡行日:09年04月29日
メンバー:三井(単独)

「椎の木沢」。安倍奥山塊の前山、二王山の東面、安倍川の右岸側に出合う沢で、このエリアの沢の中では流程も長いが果たしてどの程度の沢なのか。
先月の「堀沢」同様、シーズン前の足慣らしを兼ねて遡行してみる気になった。結果は「スカ」という他なく、稜線まで上がらずUターンしてしまった。そんな沢なので記録を出しても仕方ないのだがこんな沢もある、という事で…。

出合いには安倍川の本流を跨いでいる長い吊り橋があり、それを渡り入渓する。沢に入るとすぐに二段の堰堤があり、左から越える。沢は幅の広い平瀬で、水量は少なく、沢の中心を音も無く流れているにすぎない。
少し進むとまた堰堤がありそれを越えると沢は両岸が狭まりゴルジュ状になる。しかも滝音も聞こえるではないか。期待感が一気にふくらみ、コーナーを曲がった途端、大きな直瀑が。と、思ったら何と堰堤。「こんなところに何で…。」
狭いゴルジュの真ん中に見上げるように立っている堰堤(20m位か)は全く不可解で、気分を害される代物だ。
とも角コイツを越えねばならない。ゴルジュの入り口まで戻り、見比べた末、左岸から登りだすが急なザレがあり、不安定で落ち口にトラバースできない。シーズン始めは思い切りが悪いのでそのせいもあろうか。
かなり巻き上げられそうで、一旦沢に戻って右岸に取り付く。ガレた斜面を少し登ると平坦なところに出る。
よく見ると道路跡のようだ。そのまま辿ってみることにする。その林道は上からの土石の崩落で殆ど埋まっていて所々に僅かにコンクリートの側壁が現れているような状態になっている。
暫く行くとまた狭い沢の中に大きな堰堤が見え、その先で沢は右に90度に折れ、左から枝沢が入っているのでT字状の二俣になっている。
立ち木にトラロープが垂れていてそれにすがって沢に降りる。
河原を少し進むとすぐゴルジュとなり今度は本当の滝(2段10m)が落ちている。右から飛沫を浴びながら直登。いい雰囲気でこれから楽しめるか、と思ったらその先にまた高い堰堤。左岸の側壁にトラロープが垂れている。
堰堤の先もゴルジュになっていて小滝もありそれらしくなるか思ったのだが長くは続かず　6mの滝を越えたところで又々堰堤。しかもそこから先は河原状で何もなさそう。「こりゃぁスカだな。」
もう殆ど諦め状態で、引き返そうと思いつつももう少し行ってみたら何かあるかも…、と未練がましくまるで絶対当らない宝くじに万一を期待するみたいな感じで平瀬となった河原を進んでいく。
沢が側溝のような渓相になったところでさすがに諦めがついた。稜線まであと四分の一くらいを残してはいるが「これまでだな。」
右岸の土石で埋まった林道を辿って出合いに戻る。